

令和4年度 三鷹中央学園 三鷹市立第四中学校 学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価 ※学園内で統一記述				学校評価 ※各学校ごとに記述									
今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること				今年度明らかになった課題 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述				今年度明らかになった課題 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述					
取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善方針	取組項目	学校の経営目標 (中核目標)	今年度の重点目標 (本年度目標)	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	第1回評価 取組 成果	第2回評価 取組 成果	自己評価(第2回)	学校関係者評価(第2回)		
	①「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」の改訂及びPDCAサイクルの構築 ②児童・生徒の自立的な学びを目指した「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現する授業改善(研究授業)の実施 ③教員の働き方改革		①改訂版(決定版)とするためにCS委員と協働して詳細を詰めていく。また、アクションプランに即したPDCAサイクルを学園、CSと共に創り上げていく。 ②三鷹市の研究協力校に学園として応募し、各校の実態に応じた児童・生徒の自立的な学びを目指した授業改善に取り組む。 ③小さなこと、できることからの実践、引き続きの教員の意識改革に取り組む。		①「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」の改訂及びPDCAサイクルの構築 ②児童・生徒の自立的な学びを目指した「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現する授業改善(研究授業)の実施 ③教員の働き方改革					①改訂版(決定版)とするためにCS委員と協働して詳細を詰めていく。また、アクションプランに即したPDCAサイクルを学園、CSと共に創り上げていく。 ②三鷹市の研究協力校に学園として応募し、各校の実態に応じた児童・生徒の自立的な学びを目指した授業改善に取り組む。 ③小さなこと、できることからの実践、引き続きの教員の意識改革に取り組む。			
コミュニティ・スクールの運営	コミュニティ・スクール委員会の協議と支援の充実に努める。	○CS委員会の中で、熟識や学校部会等を行い、意見交換をすることができた。 ○学園の教員とCS委員との100人熟識を2回行い、「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」の見直しを行い、一定程度の改訂を行うことができた。熟識に意欲的に参加できた教員の回答も90%以上上り、有意義な熟識になった。 ○防災授業に地域人財とともに取り組んだと回答した教員は、93.5%と高く、三鷹中央学園9年間の防災教育が、コロナ禍前の取組に戻ってきた。また、人財活用による学習効果は、96.8%の教員が高まったと回答している。地域人財を積極的に活用した教育活動がすすめられつつある。	●CS委員会の活性化 ⇒委員会の中で、熟識や学校部会を増やし、意見交換しやすい雰囲気と体制を作る。 ●「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」改訂後について ⇒アクションプランに即した、PDCAサイクルを構築する。	人財力・社会力の育成	①コミュニティ・スクール委員会を校に、学校と地域の協働を進める。 ②「スクール・コミュニティ」を創造する。	①「個別最適な学び」「協働的な学び」を視座とした研究授業を実施する。 ②学習タブレット含めたICT機器を効果的に活用した授業を実施するとともに、「デジタルシティズンシップ」について熟識をおとせ身に付けていく。		3	—	4	4	熟識への参加意欲についてのアンケート結果は、肯定的な回答が前回の88.7%から、98.3%に上昇した。2回ともに意欲的に参加でき有意義な熟識になった。PUAPの改訂については、年度末まで評価はできない。 防災授業に地域人財とともに取り組んだと回答した教員は、93.5%であった。防災教育は、三鷹中央学園の特色の一つである。今後も地域の方々と連携をしながら進めていきたい。また、人財活用による学習効果は、96.8%の教員が高まったと回答している。	妥当19 ・合同熟識に各校の先生が積極的に意見を述べ、PUAPの内容や表現の検討に貢献している様子が向えた。また、地域人財と連携した授業による学習効果を教員が高く評価している点は重要だと考える。 ・新アクションプランがより良い形で改定できるより期待している。
と小して中の教育活動	学園研究会の活性化と交流活動の一層の充実を図り、学園としての一体感を深める。	○対面での研究授業を3校ともに実施することができた。自らの授業に生かした教員は、95%以上あり、有意義な研究授業となった。また、授業がわかると回答している児童・生徒も90%以上あり、児童・生徒の実態に即した授業が展開できている。 ○交流活動は、コロナ禍前に戻りつつあり、多くの交流が行われたことが成果である。「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」「デジタルシティズンシップ教育」の熟識も計画どおり実施でき、意識改革を図ることができた。コロナ禍の中で活動であったが、交流活動が学園の一体感を生み出していることと回答した教員は82.3%おり、小・中一貫としての重要な要素となっている。	●「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けた授業改善(研究授業)の実施 ⇒三鷹市の研究協力校に学園として応募し、児童・生徒の自立的な学びの確立を目指した「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現する授業改善に取り組んでいく。 ●交流活動の成果検証 ⇒交流活動が学園の子供たちにとって有効な活動となっているのかについて、個々の活動について検証をし、よりよい活動に改善する。	学園・学校運営	①校種を超え、学園教職員としての一体感を生徒や教職員に醸成する。 ②挨拶などの基本的な生活習慣について、生徒による主体的な活動を設定しながら、全教職員で継続的に指導し、成果を共有する。 ③自己有用感や自尊感情を育てるとともに、不登校やいじめなどの課題に対して組織的に対応する。	①「あいさつは自分から、返事は『はい』の合言葉のもと、学校、学園『あいさつ運動』を実施し、挨拶や返事の大切さを理解させ、自覚をもたせるとともに、不登校やいじめなどの課題に対して組織的に対応する。		4	4	4	4	研究授業を自らの授業に生かした教員は、前回は、96.9%、今回は93.5%と高い数値である。また、授業がわかると回答している児童生徒は三小(93.0%)七小(87.0%)、四中(89.7%)であった。今後も授業改善に取り組んでいく。 交流活動に取り組んだと回答した教員は79.1%、交流活動が一体感を生み出していると回答した教員は82.3%だった。まだまだ、コロナ禍で制限がある中だが、次第に交流活動は活発になってきている。	妥当18 ・「個別最適な学び」のさらなる促進とともに、「集団の学び」との関連をどう図るか、今後とも指導ください。
(知) 確かな学力	相手の考えを生かし自分の考えを広げ深める力を育む。	○「個別最適な学び」「協働的な学び」をテーマとして、研究授業を、学園、学校で実施した。個々の教員が授業改善に取り組んでいる様子が見られ、「個別最適な学び」「協働的な学び」についての共通理解が進んだ。また、ICT機器(短焦点プロジェクターやタブレット)を効果的に活用して授業改善に取り組んだ教員が多い。 ○「デジタルシティズンシップ教育」の理解に向けた各々での話し合い、学園としての熟識を経て、市内全学園の熟識に参加し、デジタルシティズンシップに対する理解が進んだ。	●ICTの効果的な活用 ⇒児童・生徒の自立的な学びにおいて、ICT機器(短焦点プロジェクターやタブレット)が授業の中で効果的に活用できているか等について、研修会やアンケート等で検証していく。 ●デジタルシティズンシップ教育について ⇒最終的に、学園としての「よりよい使い手になるため」のスローガンを作り、児童・生徒の資質・能力を育成する。	と小して中の教育活動	①「個別最適な学び」「協働的な学び」を視座とした研究授業に取り組むことと目標とする。 ②人権尊重・生命尊重の精神を高め、豊かな心と社会性の育成に努める。	①生涯を通じて運動に親しむ基礎をつくり、体力の向上を図るとともに、保健指導、安全指導、食育を推進し、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を養う。	①男女共習の体育の授業を通して運動の楽しさと親しむ態度を育てる。 ②食育の推進の一環として、三鷹産食材を使ったメニュー作り等に生徒とともに取り組む。	4	3	4	3	・ICT機器を効果的に活用して授業改善に取り組んだ教員は、前回は80.9%から94.7%に上昇した。短焦点プロジェクターやタブレット等を効果的に活用しつつある。今後も研究を続けていく。 ・「学習内容や方法を工夫して自ら進んで学習に取り組んでいる」生徒の肯定的な回答は、前回は79.3%、第2回は76.0%だった。工夫や進んで学習することは、なかなか難しいことではあるが、「個別最適な学び」が実現できるように支援していく。	妥当18 ・短焦点プロジェクターやタブレットの活用が効果的にできていることはとても良い。 ・成果よりも取り組み方が高評価なので、良い取り組み方がなされているのだと思う。 ・「個別最適な学び」には自己計画性を高める支援が大切だと感じる。
(徳) 豊かな人間性	伝え合う力を高め、自分も相手も大切にすることを育む。	○学園の挨拶運動が実施でき、各校でも様々な挨拶についての取組も行われ、挨拶についての児童・生徒の意識が高まった。 ○学期初め、終わり等を中心に、児童・生徒への相談体制について、周知できた。日々の生活の中では、スクールカウンセラーを中心に、校内で相談体制を確立している。 ○「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、未然予防、早期発見、早期解決に組織的に取り組むことができた。	●特別な支援を要する児童・生徒への対応 ⇒個々の教員が抱え込むことなく、学校として組織的に対応できる体制を整える。特に校内支援委員会の充実を図る。また、関係諸機関との連携、協力して、個々の児童・生徒に適した支援を行う。(ケース会議等の充実)	児童・生徒の学力・健全な育成	①集団生活を仲間とともに創造し帰属意識のある生徒を育てることを目標とする。 ②人権尊重・生命尊重の精神を高め、豊かな心と社会性の育成に努める。	①たくましく生きる力を支えるために必要な健やかな心身の育成を図る。そのため、生涯を通じて運動に親しむ基礎をつくり、体力の向上を図るとともに、保健指導、安全指導、食育を推進して、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を養う。		4	4	4	4	・「生徒にとって安心・安全な学級・学年経営に取り組んだ」教員は、前回、第2回ともに100%だった。教員にとって、礼儀指導や安心・安全な居場所づくりは必須事項。今後とも意識を高くもち継続していきたい。 ・「よい所を認めたり、思いやりのある態度で接したりしている」と回答した生徒は前回は95.7%、第2回は92.0%だった。四中生は、思いやりのある優しい生徒が多いと感じている。	妥当18 ・普段から教職員や身近な大人が良いコミュニケーションが取れている様子を見て、生徒も自然に思いやりをもっていると感じた。 ・学校行事を通して人間関係の構築が高められているように感じた。
(体) 健康な体力	すすんで心と体の健康を大切にすることを育む。	○食育研究学園(学校)として、食に関する正しい知識や望ましい食習慣等について学び、市内産農産物を活用した「給食メニュー」の開発に取り組んだ。小学校では、野菜の栽培、収穫にも取り組んだ。給食には子供たちの考えたメニューが登場している。ホームページ等でも随時、保護者や地域に発信することができた。また、学園保護者対象の講演会も実施できた。	●体力、運動能力の向上と食育の推進 ⇒各校の実態を踏まえ、体育の授業以外にも体力の向上が図れるような取組を行う。また、食が体力や運動能力と大きく結びついていることも学校生活の中で学ばせていく。		①「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」を見直し、改訂し、着実に実践・発信していく。 ②地域等の人財や学校施設を活用し、コミュニティ・スクール委員会と協働することを通じて、地域づくりの核となるスクール・コミュニティを目指す。	①熟識をとおり、「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」の改訂をする。 ②みたびSCサポートネットの協力を仰ぎ、防災授業を行う。		4	4	4	4	・「基本的な生活習慣や安全指導、食育等に取り組んだ」教員は、前回、第2回ともに100%だった。上記の内容同様、教員にとっては必須事項。当然の自己評価と思う。今年度は、食育研究校なので、特に食育に力を入れていきたいと思う。 ・「基本的な生活習慣を心がけ、健康・安全な生活を送ることができた」生徒は、前回は87.9%、第2回は72.0%だった。第2回は、早寝、早起き、朝ごはん等の記述が入ったため、評価が低くなったと考えられる。新型コロナウイルス対策等も行いながら過ごせた2学期だったと思う。平均80%と考え評価は「4」とした。	妥当16 ・運動や食育についてよく考えられていて良い。 ・学年が上がると朝食を抜く子どもが増えているのかなと思った。 ・体調不良や積極的に取り組めない生徒も一定数いるのかと思うので、無理せずすすめていただきたい。
特色ある教育活動	関係諸機関や地域関係諸団体と協働して、児童・生徒の放課後や休日の学びを拡充する。(学校3部制の第2部の充実を図る。)	○3校のみたか地域未来塾の活動、三小の放課後地城子どもクラブの拡充、四中の各種検定の実施、拡充(コロナ禍で中学生のみ実施)等、関係機関と協働して、児童・生徒の学びの場の提供を行った。 ○9年間の系統的な防災教育を、計画どおりに実施することができた。コロナ禍においても、工夫をしながら実施できたことは大きな成果である。人財活用によって学びの拡充が図られている。	●コロナ禍の状況を把握しつつ、三鷹中央学園としての特色ある活動を推進していく。 ⇒9年間の防災教育への教員の共通理解と共通実践 ⇒みたか地域未来塾のさらなる充実 ⇒「三小、七小放課後地城子どもクラブ」及び「四中生のびー」の充実、発展 ⇒各種検定の学園(小学生・中学生・地域)としての実施	コミュニティ・スクールの運営	①社会に開かれた教育課程の実現とともに、スクール・コミュニティの創造を推進する。	①スクール・コミュニティの充実に向け、関係諸機関や地域関係諸団体と協働して、生徒の放課後や休日の学びの拡充を図る。(学校第2部の充実)	①関係諸機関との協働して、防災教育を行う。 ②学校第2部として、みたか未来塾、四中ゆないと、ういりびー等の充実を図る。また、各種検定を実施する。	—	—	4	4	地域人財と連携して取り組んだ教員は93.5%、人財活用によって学びの拡充が図られると回答した教員は84.3%だった。コロナ禍もあり、十分な活用が図れている状況ではないが、生徒の学びを充実させるために、今後も効果的な活用を図っていく。	妥当18 ・検定や防災授業も生徒が自ら進んで頑張っている様子がわかり、とても良い。
学校教育の質の向上を目指した学校の働き方改革	教職員の実勤務時間の縮減や疲労回復につながる働き方改革を推進する。	○大きな成果はないが、ICTの活用やペーパーレス化は、確実に進んでいる。教員の意識改革も少しずつではあるが、浸透してきている。	●大きな成果を上げることよりも、教員の心身の健康を優先する。管理職が教員の意見も聞き入れながら方針を出していく。 ●コロナ禍での経験を生かし、転換を図っていく。	学校の働き方改革	①教員一人ひとりの心身の健康保持 ②教職員の業務量の適正な管理を行うとともに、校支障の出退勤システムを活用して勤務時間外業務時間の適正化を図る。 ③学校スタッフの効果的な活用により、業務時間の短縮を図る。	①デジタル技術の活用によるペーパーレス化や部活動休止日等の設定により業務時間を確保する。 ②スクールサポートスタッフ(SSS)、副校長業務支援員等の活用により業務の短縮を図る。		1	1	1	3	・「優先順位や効率化を図り、時間を意識して働いた」教員は、前回は38.1%、第2回は42.2%で、多少上昇した。管理職や主幹教諭の働き掛けや意識改革を継続して行っていく。 ・超過時間が減った教員は、前回は4割程度だったが、今回は6割まで上昇した。継続して、業務内容の見直しと働き方について検討していく。	妥当15 ・地域人財を活用するなど、少しでも負担を軽減し、授業の準備に十分な時間がとれて、笑顔で接することができる。 ・先生活の身体・精神の健康に留意され、教育のねらいが達成されることを願う。 ・超過時間が減った教員は、前回は4割程度だったが、今回は6割まで上昇した。継続して、業務内容の見直しと働き方について検討していく。